

令和元年12月教育委員会定例会会議録

○日 時 令和元年12月10日(火) 13:30～15:13

○場 所 有明公民館 2階講義室

○出席委員の氏名

教 育 長	森 本 和 孝
委 員	本 多 直 行
委 員	友 永 峰 昭
委 員	立 花 博
委 員	森 み ず き

○欠席委員 なし

○委員以外の出席者の氏名

教 育 次 長	平 山 慎 一	教育総務課長	菅 幸 博
学 校 教 育 課 長	古 瀬 唯 二	社会教育課長	松 本 恒 一
ス ポ ー ツ 課 長	浅 田 寿 啓	書 記	北 島 久 弥

○傍聴者 なし

○議事日程

開 会

- 第 1 会期決定
- 第 2 会議録署名委員の指名
- 第 3 前会会議録の承認
- 第 4 教育長報告及び各課11月行事報告
- 第 5 議案上程

83号議案	島原市奨学金貸付条例施行規則の一部を改正する規則	原案 可決
-------	--------------------------	----------

第 6 次回定例教育委員会日程について

第 7 その他

(1) 報告事項

① 12月行事予定について

(2) その他

①第1回総合教育会議の議事録について

第 8 閉会

【会議録】

開会 (13:30)	
森本教育長	みなさん、こんにちは。ただいまより12月定例会を開催いたします。
第 1 会期決定	
森本教育長	まず、日程第1「会期の決定」を議題といたします。 会期は、本日1日とすることよろしいでしょうか。 (「はい」の声)
森本教育長	それでは、会期は本日1日と決定いたします。
第 2 会議録署名委員の指名について	
森本教育長	次に、日程第2「会議録署名委員の指名」を行います。 会議録署名委員に森委員と立花委員を指名しますので、よろしくお願 いします。 (「はい」の声)
第 3 前会会議録の承認	
森本教育長	次に、日程第3「前会会議録の承認」を議題といたします。11月1 日に行いました定例会の会議録につきましては、お手元に渡してござ います。ご覧いただきまして、何かお気づきの事がございましたら、ご 意見をお願い致します。しばらく目を通していただきたいと思います。
森本教育長	いかがでしょうか、字句の訂正を除き承認してよろしいでしょうか。 (「はい」の声)
森本教育長	それでは承認いたします。もし字句の訂正がございましたら、後ほど 事務局までお伝えください。

第 4 教育長報告及び各課 1 1 月行事報告

森本教育長

次に、日程第 4 「教育長報告及び各課 1 1 月行事報告」を議題といたします。まず、私のほうから報告させていただきます。

1 2 月に入りまして、急に寒くなっている状況でございますが、主に小学校においてインフルエンザが随分流行っております。例年より早いなという印象ですが、収まったかなと思いましたら今日も 2 学級の学級閉鎖があっているようでございます。

今日、私からは大きく 3 つのことを報告させていただきます。

一つ目は学校巡回訪問と研究発表でございます。本年度は巡回指導が 5 校、研究発表が 3 校計 8 校を回らせていただいたわけですが、委員の皆様本当にありがとうございました。

まず、巡回指導につきましては、私が感じたことではあります、校長の学校経営の具体性が必要だなということ、併せまして教頭がそれを教職員集団にいか浸透させ、教職員集団を動かすか、これだなということを感じました。どこがいの悪いのという状況ではありませんけども、私のほうの最後のあいさつの一つとして、よく学校では組織力を活用しますという言葉を使うんですが、組織力で一番大切なのは、目的・目標を共有する力、併せてそれを実践する力ですよというふうなお話をいたしました。これは、校長、教頭の役割がいかにかをを感じ取ってほしい思いを含めてお話をしたところであります。

続いて研究発表です。今年 3 校ありましたけれども、それぞれの学校が学校の課題、あるいは教育課題の解決に向けて研究主旨に沿った授業の公開をしておりました。

授業後の部会、授業についての協議を行う場があるわけですが、今はどこの学校もすべての参加者が参加をするワークショップ型の研究協議を行っております。

それぞれが自分の意見を出し合いますので非常に盛り上がって、いい研究会になるという部分もありますが、逆に言うと研究の根幹に触れる部分での協議ができにくいという難点があります。

この研究主題と授業はこうでなくてはいけないのではといった、突っ込んだ議論ができにくいということです。やはり各校ともエース級というか研究主任クラスの教員が参加をしておりましたけれども、研究主任

の育ちという点についてはちょっと難しい部分があるなという想いをいたしましたし、また発表した学校ともに、しっかりとした研究理論の構築という視点では若干の課題があるという想いをいたしましたところでは。

大きな2つ目です。これは11月18日に行われました県の都市教育長協議会の報告になりますけれども、このなかの一つとして、教職員の働き方改革について協議を行いました。市によっては国の補助事業であるスクールサポートスタッフいわゆる教職員のサポートをする人材ですね、それを配置している学校もあります。また、ある市では部活動指導員を導入している市もありました。

しかしながら、やはり部活動指導員など人材がないというような市もあって、なかなか進んでいかない状況でありまして、この働き方改革につきましても、どこの市も非常に苦慮している状況であります。

そのなかで大村市が、来年4月からこれまでの2学期制から3学期制に戻ることが決定したということで、報告を受けたところであります。これが新たな3学期制ということで、お手元の資料をご覧ください。従来の3学期制ではなくて新たな3学期制ということで、どこが新たなのかと、そこに表がありますが、通常の3学期制ですと1学期が8月までです。9月から12月が2学期、1月から3月までが3学期となるんですが、その表を見ておわかりのように、2学期が8月の中盤以降に来てます。8月中に2学期を始めますと、これが新たな3学期制に移行しますよという大村市教委の今の計画で、これはそのまま4月から実施をされるようです。

では、なぜ2学期制に移ったかということ、1つは学びの連続性ということで、長期休業を挟むとどうしても子供たちの学びが止まる、そういったことで学期を2つにすることで、子供たちの学びがつながっていくだろうと、もう一つは授業時間が確保できますので、子供たちと向き合う時間が多くなるだろうと、そういったことで2学期制に移行をしたわけですが、今回3学期制に戻すという理由につきましても、一番大きな点は、保護者や地域の皆さんの理解を得ることができなかったということでありました。始まって10年たって戻すということを英断したようです。

それで、佐世保市が今検討をしております、佐世保市は2学期に戻し

た理由を学力向上ということで挙げておりました。しかしながら学力向上が目に見えてないということで、今回は戻すんだという議論になっている。おそらく戻していくでしょう。

非常に難しい問題ではあったんですけども、よく教育100年と言いますが、変えてすぐ戻すというのもどうなのかなという思いもしましたが、ただこの2市に共通する点が教職員にはこの2学期制が非常に好評であった。やはり余裕がある。子供たちとしっかり向き合える。

つまり、通知表を作るのが3回から2回になりました。学期末が少ないとなると、その分教員の負担も少なくなって、だから教職員をいかに説き伏せるかが現在佐世保市の大きな課題であるということでした。

続きまして、同じく都市教育長協議会のなかで、資料を見て私も驚いたんですが、新時代の学びを支える先端技術の活用促進ということで文部科学省の概算要求の資料になります。これは今回の議会の一般質問のなかでも少しふれてありましたけれども、ソサエティ5.0と言われる次世代を見据えた学校、それから教育環境の整備をするという文科省の大きな事業になります。

これは20数兆円と言われる経済活性化の事業のなかの一つでもありまして、1枚めくっていただくとポンチ絵がありまして、今私が知りえた範囲の話を見せていただきたいと思います。どういったことなのかというと、まず一人1台の教育用コンピュータを配置しましょうということ、これまでは3学級に1台となっていて、こういった謳い文句になります。さらにそれを高速・大容量・機密性の高いネットワークを構築しましょう。さらに先端技術、教育用ビッグデータを活用しましょうということです。

この3つのことをやることによってどうなるのかというと、1枚めくっていただいて写真付きのポンチ絵がありますが、具体的に言うとまず、一人1台コンピュータ、それから高速ネットワークを可能にして、デジタル教科書それからAIドリルをどんどん活用させましょうということです。これによって効果的な学習、興味・関心を喚起しましょう。そして書いてありませんが個別の最適化ということで、個々人にあった教材を、個々人が選んでいくような形に仕向けて行こうとするもので

す。

これに関しては、私が先月九州都市教育長協議会報告のなかで話をした分ですね。次に真ん中になりますが、遠隔オンライン教育を実施するんだということです。例えば、過疎地や離島、そういったところと中央と結んで、いろんな考え方が交流できるようなそういった授業を行えるようにしたいと、それから入院中の子供たちにもキチンと学習を保証しましょうという。さらには、ここにありませんけれども、不登校の子供たちにもこれを有効活用しようとする動きもあるのではなかろうか、これは私の想像ではありますが。

それで一番右については防災機能。学校が避難所となったときに有効活用できるような、そういったオンラインも必要だろうと、そういったことをやっていこうという文科省の3か年の事業となっております。

一番左側のところは経済産業省がジョイントをしているような話もあり、1年間で約370億、3か年で1000億円を超える大きな事業になりまして、すべての学校でこれをやっていきたいと思いますということでありました。

確かにソサエティ5.0という、先が見えない時代を生きる子供たちに、こういったことも必要なのかもしれませんが、果たして学校が、教職員、教育委員会も含めてついていけるのか、本当に心配になっております。ある民間の調査によりますと今回の小学校の教育改革については、90%以上の方が非常に不安を持っているというデータがありました。その不安はなんだろうかという教職員の質なんだそうです。

教職員の質というのは、教職員が果たしてプログラミングや外国語、これに追いついていけるのか、そういった不安を持っているということでもあります。まさしくそのとおりだなという想いをいたしたところでありました。

さらに今回補助事業でやったにしろ、その後はおそらく自立してしなさいよという取り扱いになると、自治体の財政はどうなるのかと非常に心配をしております。

しかし、全ての学校でこれをやるとなれば、せざるを得ない状況にあるのかもしれませんが、気を引き締めてやらなければいけないと思っております。

	<p>これまで、情報提供でございました。</p> <p>次に3点目です。公民館まつりについてですけれども、11月12月と各公民館で実施をされておりました。私も三会と杉谷、森岳に顔を出したんですが、公民館サークルの皆様も発表会あるいは展示会、それに加えてバザーとか福引とかがあって、地域のみなさんがこぞって参加できるような体制をとってらっしゃいました。</p> <p>最近気づいたことですが、子供たちの参加が非常に増えてきているなと思いました。一つは、舞台発表の場として参加をしている、例えば三会公民館では、中学生の吹奏楽部が参加しておりました。杉谷公民館では、第四小学校の音楽クラブが参加しておりました。</p> <p>また、運営面では、森岳公民館では司会を小学生がやっておりましたし、杉谷ではプログラム作成あるいは、受付等に参加をいたしておりました。今後このような動きが増えてくれば、子供たちの活躍の場が広がるのが期待できるなという想いがいたしたところです。</p> <p>しかしながら、動きとして、子供を参加させれば参加者も増えるからいいだろうという安直な考えで、子供たちを引っ張り出すのはどうかなと思いますし、学校に丸投げという形での参加もいかなものかと思ったところです。しかし今後については、しっかりと見極めていきたいなと思っております。</p> <p>私のほうからは以上となります。引き続き各課から報告願います。</p>
菅 課 長	<p>教育総務課の主な行事について、別紙「教育委員会定例会報告事項（教育総務課）」の内容説明。</p>
古 瀬 課 長	<p>学校教育課の主な行事について、別紙「教育委員会定例会報告事項（学校教育課）」の内容説明。</p>
松 本 課 長	<p>社会教育課の主な行事について、別紙「教育委員会定例会報告事項（社会教育課）」の内容説明。</p>
浅 田 課 長	<p>スポーツ課の主な行事について、別紙「教育委員会定例会報告事項（スポーツ課）」の内容説明</p>

森本教育長	<p>ただ今の報告につきまして、何かご質問やご意見がありましたらお願いします。</p>
立花委員	<p>教育長さんの報告のなかで、巡回訪問それから研究発表会について、話がありましたので、今年度の訪問、研究発表会全部終わったんですね。感想とお願いといくつかお話をさせてください。</p> <p>まず、巡回訪問を1年間各学校をさせていただいて、現在の島原市の小中学校の学力向上へ向けての取組の成果とといいますか、その現在の状況、それから特に中学校の生徒指導の状況、本当に素晴らしいと思っていますし、これだけの状況を作るには、校長先生をはじめ現場の先生方が相当なご努力をされてるんだなということを感じました。</p> <p>一つ課長さんをお願いしたいことは、学校によって、特に小学校ですね、温度差もあるんですが鉛筆の持ち方ですね、特に低学年。その学校の低学年を見ればだいたい高学年がどういう状況かというのは見てとれたんですけど、鉛筆の持ち方であったり、座っているときの姿勢であったり、それから字を書く時の目の高さであったり、やはり大事なことではないかなと思って、学力向上はいいんですけど、そういう基本的なことの指導も現場ではおろそかにしてはいけないんじゃないかということを感じました。それが一点ですね。</p> <p>この前教育長さんの教育委員会表彰の式辞のなかで、教育は人なりという話をされました。私も感動したんですが、教育長さんをはじめ次長さん、それから事務局の各課長さん方、素晴らしいスタッフが今お揃いですから、是非学校現場のですね、学校教育課だけというのではなくて教育委員会全体として、やはり学校現場の先生方をもっともっと育てていただきたいなという想いがあります。</p> <p>校長会でも教頭会でもこういう指導をしてくださいということは、これまでも言ったことがあるんですけども、さきほどICT教育の云々でこれから教員がついていけるか心配と教育長さんからも話もあったんですが、そちらのことも、資質もそうですけど、もっと基本的に教育とはなんぞや教育とはどういうものかということの指導もですね、具体的には持ち合わせませんけども、やはり教育は大事なんだよ、先生方がしっか</p>

森本教育長	<p>りしないと子供たちは育たないよということを常々、何かにつけてご指導いただければと思っています。</p> <p>ありがとうございました。他に何かありませんでしょうか。</p>
本多委員	<p>さきほど教育長のほうから将来的なICT等先端技術を活用した教育の方向性、それから課題等についてご説明いただきましたけれども、このような方向性は国から示されておりますので、避けては通れないだろうと思います。</p> <p>そういったなかで、先日新聞を見ておりましたら、国の緊急経済対策ということで、一人1台のパソコンもしくは、タブレット、それを公表するような予算、それを令和5年までにとなつてまして、特に今年度ですかね2300億円を充当して、小学校5年生以上の高学年に割り当てるといふような内容が載っておりました。</p> <p>そういった予算については、今後どういった形でやっていくのか。そして、それに伴う学校現場の対応ですね、あるいは、市としての教育施策としての考え方、こういったものもやはり早めに考えていかなければならないのかなという気がいたしました。</p> <p>そこで、国の施策がある程度情報として入っていれば、お聞きしたいと思います。例えば予算、とりあえず財政的な問題なのかなという気もしますけど。</p>
菅課長	<p>今、特に情報化にかかるICT教育にかかる予算措置についてご質問がありましたけれども、今国のほうはですね以前から情報教育の推進ということで、補助金ではなくて地方財政措置、交付税のなかに一定額を措置していますということで、具体的に言えば3クラスに1クラス分程度を措置しています。</p> <p>実際の額を単位費用、あるいは測定単位で試算してみましたが、だいたい島原市の場合で小中併せて7千万円程度が、交付税のなかで教育関係情報化経費として需要額のなかに算入されているということにはなっています。</p> <p>今後についてですが、私どももまだ新聞報道でしか把握できていない</p>

	<p>んですが、来年度から、このGIGAスクールネットワーク構想と併せて、パソコンの一人1台に向けて予算措置をしていくということで、まずは小学校の5年生から中学校3年生までについては、来年度以降3か年で整備をしていく。それ以降小学校の1年生から4年生までは、その後の3年間で整備をしていく、国主導で24年度までに大きく情報教育環境の整備をしたいというような報道があります。</p> <p>私たちが一番危惧しているのが、教育長からもありましたように、人的、資質的なものもありますが、この予算措置が補助金ではなくて地方財政措置ということで一般財源なんですね。ですから国はもうすでに3クラスに1クラス分は、すでに措置はしていると考えていますが、今島原市の配置状況は4.7人に1台という割合なんです。そこでこの不足分を国がどのように措置してくれるのかですね。</p> <p>結局、一般財源として交付税で交付されていますが、実際には、その見合った用途には使われていないわけですね、その辺を財政当局にお願いをして、国が求めるような一人1台の環境を整備するのが、今後大きな課題になっていくのかと思っています。</p>
本多委員	<p>わかりました。建前は一人1台なんだけれども、措置は実態に応じて最終的にそれが補填されるかどうかは、はっきりとはわからないということですね。</p>
菅課長	<p>そうです。ただこのGIGAスクールネットワーク構想については、学校環境施設整備交付金で、1/2補助ということで示されています。</p>
森本教育長	<p>これまで交付税措置されていた分を自治体がどう使っているかということになってくる。うちの場合かなり遅れている。</p>
立花委員	<p>今、本多委員さんが質問されたことに関連して、教育長のほうから2点財政の問題と、教職員の質が追いつくだろうかということでお話がありましたけれども、教職員に対してこういったものに精通して指導するための教育と言うのはなにかあるんでしょうか。パソコンが一人1台という時代が来るにしても、それを指導する教職員の研修をどのように計</p>

<p>菅 課 長</p>	<p>画されているかということですが。</p> <p>さきほど報告のなかで、古瀬課長のほうからお話がありましたが、うちのほうでも今年度教育用パソコンと校務用のパソコンを更新しましたけれども、それに併せてICT支援員という者を雇用しております。</p> <p>まずはこのICT支援員を中心に各学校を訪問して指導をしていきたいと考えています。</p>
<p>古瀬 課 長</p>	<p>ICT支援員が市内ではまさに指導的な立場になってもらう形ではないかなと思っております。まずは学校で校内研修を通して、パソコンの使い方なり、あるいは指導の仕方なりを教員が研鑽を深めて指導力を高めていくのが大事と思っておりますが、まずはこのICT支援員。</p> <p>それから県におきましては県の教育センターでの講座あるいは、県主催のプログラミング教育研修、そういったものに派遣をしたりしていかなければ、やはり一遍には、全員がそうなることはありませんが、まずはICT支援員にそういった技術の向上を図ってもらいたいと考えております。もちろん次年度もICT支援員を配置して、さらにパソコン等の技術の向上を図っていききたいと考えております。</p>
<p>菅 課 長</p>	<p>先月14日にあったICT支援員と学校の情報担当者の意見交換会に私も出席をしたんですけれども、一番感じたのが、学校間で、もっと言えば教員間でも温度差があるなと思いました。</p> <p>プログラミング教育と言いましても、道徳とか外国語みたいに教科があるわけではないので、学校によっては総合的な学習のなかでプログラミング的な教育あるいは考え方を教えるということもあります。ただ中学校の教員の方は、本来であれば小学校で一般的な入力操作ぐらいは覚えてきてほしいけれども、中学校に入ってから指1本1本でしか入力できないということの話もありました。そして温度差もあるので、果たしてICT支援員1名で十分スキルアップが図れるかどうかは非常に疑問ではあります。</p> <p>各学校の教師の考え方というかモチベーションというかそれに差があるように感じました。</p>

友永委員	<p>全国的にこういう動きで、いろんな教育がなされるわけですが、財政的な危惧の問題と、一方で指導者の問題もある。教育に地域による格差が生まれてはいけないと思うんですが、その辺を心配しております。</p>
森本教育長	<p>今回のこの大きなプロジェクトに関して、新聞報道によるとやはり教職員の研修にも力を入れるということは文科省も出している。具体的にどういった研修をするのかというのは、私たちもわかりませんが研修をまずは進めていかないと、モノは入ったわ、学校は使えないでは、一番困るんじゃないかなという気はしています。</p> <p>現実的に言えばパソコンという機械はキチンと配置しましたよ、では授業のどこで使うのかを文科省も明確に示していない部分があって、これまでうやむやになってきた経緯がある。思ったような成果が上がっていないように私は思うんですけれども。</p> <p>逆に家庭でやっているほうが子供たちはどんどん進んでいく、学校のほうが遅れてるんじゃないかという気はしています。</p> <p>ただ、さきほど菅課長も言いましたが、基本的な入力というのは小中学校の段階でしてやらないと、実際子供たちが社会に出たときに社会が必要とするのは、スマホをうまく扱えるのではなくて、きちんとパソコン入力をしてやっていく力が必要だと聞いております。今後も十分検討していかないといけないと感じております。</p>
立花委員	<p>今文科省は主体的で対話的で深い学びって出してますね、前回もこの資料を見せていただいて、情報化が進んで一人1台にパソコン配置になりました、研修によって先生方もあるいは子供たちも操作ができるようになりましたとなったときに、45分の小学校の授業のなかで、主体的に自分が課題を持って取り組むことはできるかもしれませんが、じゃあそれで対話的で深い学びをどこでどう仕組みばいいのか、現場の先生方は、あれほど主体的、対話的と言ってきて、授業スタイルをこう対話中心に変えましたという流れがきてます。</p> <p>ところが、パソコンが一人1台入ってきて、個別的な学習を進めていくことと、対話的な活動を45分のなかに仕組むことと、ますます現場</p>

	<p>は大変になってくるのかなと、まだ先が見えてないんでそういう不安があるんです。</p> <p>このパソコンが一人1台入ることはいいんですが、授業の在り様については十分研修をしていかないといけないと思うんですね。まだ私自身が先が見えていないものですから、基本的、根本的に45分の授業の形態が変わっていくのかなという気もしますし、対話の仕組み方とかわからないことがあります。</p>
友永委員	<p>物に富んで心が貧しくなるという話ですけれども、覚えないといけないことが多くて、肝心な対話するとか心を伝えるとか、伝統文化とかいろんなものを伝えるのが、難しくなってくるのではないかというのをものすごく心配します。教育現場は大変になってくると思います。</p>
古瀬課長	<p>おっしゃるとおり、物が豊かになってくれば、こころが貧しくなると言われるんですが、あくまでもパソコンなどはツールであって、目的でもなんでもない、ただし、ある一定の技術を保証するためにはやらなければなりません、授業を組み立てるときや教育活動をするときなどは、あくまでパソコンは人間関係あるいは教育活動をするときのひとつの手段とすべきであって、それが目的化してしまったり研究の中心になってしまって、立花委員が言われるような変な方向に教育活動が行かないように、教育委員会学校教育課としては、指導をしていきたいと考えています。</p>
立花委員	<p>対話の必要性が無くなってくる可能性があるなと思ってですね、わからないからお互い考えの違う者同士が、自分の考え方をそれぞれぶつけあって、新たな学びを構築していくあるいは課題を解決していくというのがいいかなと思うんですが、パソコンで課題が解決できるのであれば、対話はいらないですね。だから、おそらくパソコンを活用した主体的で、対話的な深い学びというのは私が考える以上の何かがあるんだろうと思うんですけど、まだそこは見えてないですね。</p>
森本教育長	<p>これだけAIが進んでくると、おそらくパソコンとの対話になってくる</p>

	<p>んではないかという気がします。技術社会で生きていく人間には必要なのかもしれませんが、関わりという点ではどんどん薄れていくのかなという想いがいたします。</p>
友永委員	<p>以前教育長も言われたように、授業じゃなくて学習になってしまっている。</p>
菅課長	<p>GIGAスクールネットワーク構想の資料の一番上に書いてあるんですが、大きく2つあるなかの上のほうは、貧困とかに関係なく誰一人取り残さない教育。その下に特異な資質、能力を見出して大学等の研究機関などの学びの機会につなげる仕組みというのがあるんですね。国としてはやはり特異な、情報処理能力に長けたような資質のある子供たちを発見して、大学等の研究機関に早くいかせるようなことも念頭に置いているのかなという気もするんですが、全ての子供がそういうわけではないし、どうなのかなと。</p>
立花委員	<p>今日もテレビでやってましたが、高校生がネット取引で捕まってきました。そのとき副校長さんが話をされていたのが、教える側のシステムよりも社会のほうがどんどん先に行っているから、そのところが怖い、難しいですねと、ドローンでウラン等を拡散されたら大変なことになりますよね、今は現実にそういうことができる段階に来てるということです。ですから今課長さんが言われたような、特異な能力を見出すのはわかるんですけど、逆にそれらを監視していくシステムも作っていかないと、追いつかないですね。</p>
森本教育長	<p>実は今、課長が言ったこのフレーズですね、あえてさきほど触れなかったのは、自分自身がこれを理解できなかったんですね。どうしてこれが入ると貧困や虐待の救済につながるのかその仕組みが分からない。おそらく、官僚が作ったものでしょうから相当遠大な背景があるんでしょうけど、全く私がこれを理解できなかったものですから触れなかったんですよ。しばらくは注目していくしかないのかなと、そういった想いでおりますけど。</p>

<p>本多委員</p> <p>森本教育長</p>	<p>一つはそういった才能のある人が国外に出ていくことに歯止めをかけたいという話もあります。国内の最先端で留まって活躍してもらおうというような考え方も背景としてはあるのかなと、しかし、これが最終ではないんでしょうから。</p> <p>国に言わせれば、それで経済も活性化するんでしょうからパソコンを配置して経済活性化、それもよくわからないんですが。</p> <p>よろしいでしょうか。他にありませんか。</p> <p>ご意見等が無いようでしたら、次にいってよろしいでしょうか。</p> <p>(「はい」の声)</p>
<p>第 5 議案上程</p>	
<p>森本教育長</p> <p>森本教育長</p> <p>菅 課 長</p>	<p>それでは、日程第5「議案上程」に入ります。</p> <p>第83号議案</p> <p>島原市奨学金貸付条例施行規則の一部を改正する規則</p> <p>第83号議案について、提案理由の説明をお願いします。</p> <p>議案集をご覧ください。第83号議案、島原市奨学金貸付条例施行規則の一部を改正する規則についてご説明いたします。</p> <p>提案理由でございますが、ふるさと奨学金の奨学生ですね、これにつきましては、前回の定例教育委員会、それから総合教育会議のなかでもご審議いただいておりますけれども、奨学生の申請者がなかなか増加しない、少ないということで、これの増を図るために、対象要件等の改正とそれにとまなう所要の改正、それに併せて字句の表記の改正をするものでございます。</p> <p>条文ですけれども、同条例施行規則の一部を次のように改正するというので、大きく4つなんですけど、具体的な中身につきましては、3ページ4ページの新旧対照表のほうで説明をさせていただきたいと思いま</p>

す。

まず一点目、第3条第1項及び第2項中の「もの」を「者」に改めるということですが、3ページになります。第3条はですね条例の第5条第3号または、条例第15条第3号ということで、9ページの方に当該条例、10ページのほうにふるさと奨学生の条例部分をつけておりますが、今回のこの第5条第3号と条例第15条第3号というのは、貸付型奨学金と償還免除のふるさと奨学金のそれぞれの所得事由部分の資格を規定した条項でございますが、この部分の基準、教育委員会が別に定める基準以下であるものの「もの」を、法律上の人格を持つ、または権利義務の主体となる「者」に、改定をしようとするものでございます。第2項については同じく奨学金の成績基準を表す条項であります。第5条第4号の高校等及び大学等の出願者は、それぞれ次の各号を満たすものとするの「もの」を、同じく人格の「者」に改定しようとするものであります。

次に、同条第3項を次のように改めるということで、3項は、もどってこね奨学金の出願者の資格に関する規定でございますが、次の各号のいずれかを満たす者ということで、センター試験の80%以上もしくは、高校の成績評定の5段階の平均が4.3以上いずれかと規定をしておりますけれども、これにつきましては、総合教育会議でも議論をさせていただいておりますが、5ページ6ページ資料1になります。そちらに過去の出願実績等々、それと7ページの方に過去3年間のもどってこね奨学金出願状況ということで、29年度は7名、30年度は2名、今年度は3名という出願状況と成績基準、所得基準それと作文の配点等を一覧表にしております。

こういった部分の実態を含めて、出願者の基準のほうを高校等の学習成績の評定の平均値が4.0以上の者とする。これのみとする改定をしたい。それと第5条につきましては、申請者の添付書類に関する規定でありますけれども、センター試験を受験した者については、この試験の結果通知を併せて申請に付けるような形にしておりましたが、資格からこのセンター試験の規定を削除することに伴いまして、その関係条項を削るということになります。

4ページが願書の様式になっておりますけれども、現行の右側には、

<p>森本教育長</p>	<p>大学入試センターの試験受験に関する記載内容を設けておりますが、関係条項を削除することに伴いまして、願書のほうからも当該部分を削るというふうな内容になっております。</p> <p>あと、資料の 8 ページからが関係の条例になります。14 ページからが同条例の施行規則を参考のために添付をさせていただいております。</p> <p>よろしくご審議いただきますようお願いいたします。</p> <p>ただ今、提案理由の説明がありましたが、何かご質問、ご意見がありましたらお願いします。</p>
<p>本多委員</p>	<p>よろしいでしょうか。私はこの改正案について、まずは賛成を表明したいと思います。それで在学時の成績評価は、高校において、勉強にいろしんだ結果だと思えます。それを受けて大学等においてどういうふうに活躍したいんだ、頑張っていきたいんだというのは、作文のなかでも一定分かることでもあるので、個々の一時期受ける大学センター試験、それは集大成かもしれませんが、なくてもいいのかな。大学等に入ってから頑張ってもらえばいいことだろうと思えます。</p> <p>そういった意味ではこのセンター試験の成績結果は、省いていいのかなという気はいたします。ただですね、この成績だけではなく、島原市に戻って頑張るんだという想いの作文をどのように評価をするかということも大事になってくるのかなという気はします。</p>
<p>森本教育長</p>	<p>ご意見などありませんか。無いようでしたら、第 83 号議案については、原案のとおり承認してよろしいでしょうか。</p> <p>(「はい」の声)</p>
<p>森本教育長</p>	<p>それでは、第 83 号議案は原案のとおり承認いたします。</p>
<p>第 6 次 定例教育委員会の日程について</p>	

	<p>おりますが、その修正については、現在策定中の第7次市勢振興計画の素案が固まってからその教育関係部分との整合をとった後で、定例会にお示しして確認してもらい。3月市議会定例会に提出させていただくこととしてよろしいでしょうか。</p> <p>(はいの声)</p>
古瀬課長	<p>ここからの報告は、個人情報保護のため非公開でお願いします。</p>
森本教育長	<p>では、これより「非公開」といたします。どうぞ。</p> <p>教職員及び児童生徒の事故等の報告（非公開）</p>
森本教育長	<p>非公開での審議を閉じて委員会を再開します。他にありませんか。</p>
古瀬課長	<p>2点報告がございます、次年度の西望賞美術展と防災避難訓練の日程が決まりましたのでお知らせします。令和2年10月24日土曜日から28日水曜日までが西望賞教育美術展となります。防災避難訓練ですが、次年度は三会地区で実施となり、対象校としましては三会小学校と三会中学校、11月8日、日曜日に市の防災避難訓練を三会地区で開催をいたします。以上です。</p>
森本教育長	<p>今の報告についてなにかありましたらお願いします</p>
森委員	<p>今年の有明の防災避難訓練に参加して思ったんですが、子供たちが参加してふざけることもなく、すごく真剣にやってたなというのを感じたんですけど、避難するときの課題点というか地域の方はここはおかしいなど思われてる方もいらっしやったと思うんですよね。私も実際思ったので、そういったところを反省点として取り上げられる場というのは設けられないんでしょうか。</p>
古瀬課長	<p>市民安全課が所管してまして、アンケート等とられてるんじゃないか</p>

森 委 員	<p>と思いますが、確認してません。</p> <p>津波想定 of 訓練で湯江小学校が避難場所になってたんですが、戸切とか栢山とかまでは津波は到達しないと思われるんですが、わざわざ標高の高いところから、湯江小学校まで避難するのに疑問を持たれていた方もいらっしゃるし、避難するときにはここは低地になっているから、危ないのになというところをわざわざ通って避難せざるを得なかったの、ちょっとしたところなんでしょうけど、各自感じられていた方もいらっしゃるので、そういう意見も取り上げられていくとまた少し、防災訓練をした意義があるのかなって思ったものですから。</p>
古瀬 課 長	<p>地域の方の声を取り上げる場の設定ということで、市民安全課にお伝えをしておきたいと思います。</p>
森本教育長	<p>よろしいでしょうか、他に何かありませんか。</p>
浅田 課 長	<p>日程のお知らせについて、例年実施しております有馬スポーツ賞の表彰式、令和2年の3月7日土曜日、時間を例年どおり10時から、この予定で進めておりますので、ご承知願います。委員の皆様には別途案内を送付いたします。</p>
森本教育長	<p>他に何かありますでしょうか。</p> <p>(「なし」の声)</p>
第 8 閉会 (1 5 : 1 3)	
森本教育長	<p>無いようでしたら、これで本日の12月定例教育委員会を閉会します。</p>

上記のとおり会議の顛末を記載し、ここに署名いたします。

教 育 委 員

教 育 委 員

記 録 職 員